

「市長と語ろう！」 大学生世代ミーティング【概要】

平成29年12月9日（土）

14時～15時30分

立川市役所

1 開会の挨拶

（市長）

こんにちは。このたびはタウンミーティングということで、ご参加をいただき、大変ありがとうございます。

さまざまな面で市民の声を行政に生かしていかなければならないという流れがあります。市民からのご意見という、個人的な意見や地域特有の意見などに偏りがちになります。今回のように、学生の皆様は市民の方もいらっしゃるし、大部分が市外の人ですから、フラットな感覚でいろいろなご意見を頂戴できると思っております。何よりも、これから社会に巣立っていく、10年、20年先に主役になる皆さんのような世代に、できれば先取りで立川のまちを合わせていく。そして少しでも、社会活動をする中で、やる気が起きるような、モチベーションが上がるような施策をとれたらありがたいと思います。次世代の主役である皆さんの意見をぜひ聞きたいということで始めたこのタウンミーティングでございます。

私は市長になりまして、今、11年目になります。その前に私は市議会議員や市の出納役をやっていたりして、36歳のときから立川の行政にかかわり合っています。そういう中で、立川駅を中心とする街並みはすっかり変わってきました。立川駅北口の伊勢丹があるところは、民家が何軒もありました。そんな時代から立川市の行政に携わってまいりました。その時々いろいろな街の移り変わりを見てきました。多摩モノレールが立川から東大和、瑞穂、青梅、八王子、町田、多摩、日野と、こういうルートを描く計画になっていますが、現在は、多摩市から立川を通過して東大和まで、延長たった16キロです。全長約90キロの計画のうち6分の1しか開通しておりません。しかし、立川を起点として北は西武線とつながり、南は大学街があります八王子や、多摩市まで延びているので、乗り降りが多く、立川へ来る来街者も多くなっています。立川市に2時間以上滞在する来街者は1日平均45万人です。2番目はまだ30万台くらいとのこと。ですから人口50万を超す八王子をしのいで、立川の方が大勢の来街者に来ていただいています。

人が来れば来るほど、さまざまな課題が起きます。例えば治安やごみ捨ての問題、たばこの問題などがあります。そういう課題をただ単に取り締まるだけでは、まちの発展や特に商業者の皆さんにとって、立川に来るお客をはねのけるような、拒絶するような行政ではあってはいけませんから、バランスをどうとるのが悩みです。また、50年後に立川も人口が現在の18万から大きく減少します。その中で、現在の繁栄をどうつなげていくか、これが非常に大きな課題になっております。

自治体の経営や運営には長期計画を策定しています。立川市は、過去に15年スパンで3回の長期計画を立ててきました。27年からは10年計画の第4次長期総合計画に入りました。10年計画を途中で見直すということで、さらに5年に区切っています。5年目の見直しの時期が3年後に迫ってきましたので、本日皆さんからいただくご提言等をできれば反映し

てまいりたいと思います。ぜひ皆さん方のフレッシュな感覚の中でのご意見をお聞かせいただければと思います。限られた時間ではございますが、どうぞよろしくおつき合いをお願いいたします。

2 意見交換

(参加者)

立川市の強みは、大型商業施設が立ち並び、鉄道とモノレールが行き交う都市でありながら、都市性と郊外性という2つの側面を持っていることです。15歳から24歳、35歳から39歳の転入人口が多いことから、多様なライフステージに合ったまちづくりができていることも立川市の強みだと思います。

立川市の弱みは、多様なライフステージに対応しているのですが、例えば、事前資料のアンケート調査「立川市が恵まれていると思う住居環境」に関して、若者だけではなく高齢者の意見も扱ったほうが良いと思いました。立川市の市民満足度調査も調べたのですが、保健福祉などについての不満が目立っていると思ったので、高齢者に関しても住みやすいまちづくりをしていくことで、より多様なライフステージに適応していくと思います。

住みやすいまちに関するアンケート調査では、一般的に住みやすいと答える人は99.3%いますが、外国人が住みやすいと答える人は64.3%、障害者が住みやすいと答える人は56.9%と落ち込んでいます。結婚する人、結婚しない人など、ライフステージがより多様化していくのがこれからの日本社会の一番の問題点であるので、それに対応するために、外国人や高齢者、障害者などの社会的少数者、弱者に対する行政サービスを向上していく必要があると思いました。

大学生の私たちに必要なことは、多様化する社会で、異質性に寛容になる力だと思います。1年前ほど前に、孤独死ゼロの立川市の大山団地に関する放送を見た後に、SNSで大山団地に対する評価を調べたところ、孤独死しても構わないという人もいました。孤独死ゼロを目指す上でコミュニティをつくるのも大事ですが、あまりコミュニティに入りたくないという方もいるので、障害者や国籍の違い、異質性や多様性に寛容になる力が大学生には必要だと思います。

(市長)

人口については、25歳から39歳の女性の転出が多いのが弱みです。これは女性の結婚適齢期、結婚をして子供を産み育てる世代です。これを何とか立川に踏みとどまって、家庭をつくって生活をしてもらうために、プレミアム婚姻届という施策を行っています。市内の紙加工会社の方と一緒に婚姻届をつくっています。1部1,000円で販売しており、全国的に人気を集めています。この婚姻届は手作りなので、量産ができないということで常に品薄になっています。また、市内にある代表的なホテルがウェディング推進会を立ち上げ、昭和記念公園で結婚式を挙げるなど、様々な仕掛けをしています。そのように女性の定着を図っていく試みをしています。

それから障害者や外国人にとって、まだまだ立川のまちは不満足ということですが、まさにその通りです。外国人は約5,000人立川市内に住んでおります。英語と韓国語、中国語、日本語の4カ国で行政案内の出版物を発行しています。外国人を集めたセミナーを実施して、買い物や生活の仕方を案内する取り組みを行っています。

高齢者対策については、健常な方、病弱な方、それぞれのステージで様々なことを実施

していますが、なかなか予算が足りません。立川は、生活保護の度合いが28パーミルで、多摩26市の中で上から2番目に多い自治体です。低所得者住宅が多く、低所得者の場合には、学校や食事、住まいの問題や子育ての問題などがあります。子育ても、保育園や幼稚園だけでなく、高校、大学、教育費の補助等もついてまいりますので、大部分が低所得者向けの政策に使わざるを得ません。それでも、できるだけ大勢の人に立川に来ていただき、消費や娯楽を楽しんでいただくことで、立川のまちが豊かになれるような方策をとっていくことこそが、行政の役割だと思って模索しているところです。

(参加者)

先ほど、低所得者の方が多く、市のお金が貧困者の方に使わざるを得ないという話をいただきました。低所得者の方は仕事についていない場合が多いと思います。市として雇用対策の改善というか、新たな雇用を創出することはありますか。

(市長)

原則として、仕事の提供とか紹介は東京都の仕事でして、直接地方自治体がやる仕事ではありません。ただし、まちなにぎわいをつくっていくことによって、雇用環境は広がっていきます。例えばお店ができる、立川で起業する方が増えれば増えるほど、労働環境は良くなり、仕事の提供もできるはずです。ただ、生活保護の方は、例えば体に不自由がある、高齢であるなど、様々な理由で働けない人の方が多いです。五体満足で生活保護を受ける方には仕事をあっ旋し、働いてお金を稼いで自立をしていただくための支援をしています。働きたいけども働けないで、日々の暮らしができませんという方は、理論上はいないはずですが。

(参加者)

立川市は、ららぽーとやルミネなどの商業施設があるにぎわいの側面と、昭和記念公園などの自然豊かな安らぎ、この2つの部分をあわせ持っていることだと思います。立川市の弱みは、都市化や少子高齢化による人口減少や転出が多くなっていることです。

大学生世代、若い世代ができることは、私はゼミの活動で、立川市の良いところを写真に撮ってSNSに拡散することで、立川市への集客を図る活動を行っています。流行語のインスタ映えのように、若い世代がSNSでまちなにぎわいを広げていくことができれば良いと思います。

(市長)

SNSの活用、学生ボランティアに対するインセンティブで、市長名の感謝状を発行するという話もありました。いいアイデアを寄せていただきましたので、可及的速やかに対応できるようにしたいと思います。

(総合政策部長)

皆さんはどういったことでインセンティブをいただきたいでしょうか。市長からは、感謝状や表彰状というお話ですけれども、何か意見ある方はいらっしゃいますか。

(参加者)

特に表彰とかではなく、実際に住んでいて楽しいと感じられるのが一番いいと思います。

(市長)

まちづくりのお手伝いやボランティアをやっていただいた結果が、ご本人のモチベーシ

ョンをさらに上げるような方向に行けばいいなと思います。学生だったら自分が仮の住まいでありながら、その地域に何かやりたいと思ってくれる方が、ボランティアをしてくれるわけです。そういう中で、モチベーションを上げるためのきっかけづくりができないかということです。

(参加者)

私も立川市に住んでいて、田舎出身なので都会の方に住んで楽しいし、お店もたくさんあり、大好きなのでここに来ました。大学生がボランティアに参加するというと、現実的に考えると、就活や大学院のときのステートメントに書けるかどうかには尽きると思います。ボランティアの活動を通して、その大学院に行きたいとか、こういう就職をしたいと思った理由づけにできるということがあると思います。そのようなインセンティブから活動し、実際に市民と触れ合っただけでやりがいを感じることで、最終的に立川市に対する市愛みたいなものが芽生えればいいのかと思います。

(市長)

まさにそのとおりです。少なくとも、人間のさがとして、あることをやったら褒めてもらったほうが良いです。褒めてもらえば気持ちがよくなる、楽しくなるからもっとモチベーションが上がってきます。市長の立場で言うと、いい仕事をすればするほど、立川市民のためになる。日本にも、外国にも表彰制度は必ずあります。自分がやってきたことが認めてもらえた、感謝してくれる人がこれだけいたと納得がいけば、それで良いと思います。

(参加者)

立川市の強みは、多摩地域で有数の一番の都市で、交通、金融、経済、就業、ほとんどのジャンルで1位を取っている印象です。弱みを言うなら、治安の問題だと思います。治安が現実的にどうかという話ではなくて、治安のイメージが悪過ぎて、例えば私のゼミや研究室の仲間が、特に女の子が、立川に引っ越すかどうかという話になったときに、南には引っ越したくないと言います。なぜかという、帰りが遅くなり、モノレールの終電頃に南の繁華街を抜けて、錦町二、三丁目まで行くとなると、すずらん通りを通らないといけなくなります。女の子があそこを通るとなると、迂回して通るかしかないと思います。

現実的な治安としては、実際に市民や大学生が思っているほど悪くはないと思います。しかし、立川南駅前のガードレールのところに女性だけを狙うキャッチの方が4、5人います。警察の取り締まりがあつたにもかかわらず、その数人がいるから女の子は夜に歩みにくいのだと思います。立川のウインズのところに市民のパトロール隊がいますが、あまり機能していない状態であると思います。警察の方もそこまで取り締まっていないという印象です。無断駐車、条例の禁止ですという放送が流れるのですが、BGMにしか聞こえない感じです。

大学生世代の私たちができることは、立川の住民としてタウンミーティングのような場に参加する、若いうちから選挙や行政に市民の一人として関わっていくことが大事だと思います、ここに来ました。

(市長)

どうもありがとうございます。南口の治安の関係については、人を24時間立たせておくわけにはいきません。防犯カメラが20年くらい経過して古くなっているので、一斉に更新する予定になっています。人間の力でパトロールするのは限界があるので、とりあえずは

防犯カメラをつけることで対応したいと思います。例えば市役所の幹部職員は、ボランティアでパトロールしています。地元の商店会、自治会も、自主的にパトロールしています。ただ、24時間というわけにいかないの、目立つ防犯カメラを設置すれば、抑止効果も出て証拠もとれる、ということで対応していきたいと思います。治安が悪いと言われる、客引きが出る近所の駐輪場は利用率の落ちているところがあります。

(参加者)

立川市の強みは、歩道も車道も広いと思います。JRと多摩モノレールが通っているので、アクセスがしやすいと思いました。逆に立川市の欠点は、私の住んでいる町田市から立川市に来るのは結構面倒くさいです。立川駅からIKEAやららぽーとは結構距離があるように思います。まずは立川市を知ってもらわないと、立川市に来たり住んだりすることはないと思います。SNS等で立川市に何があるかを知ってもらうことが大事だと思います。

大学生の私ができることは、SNS等で立川市にあるものを伝えること、そのような情報を見ることが大事だと思います。情報をしっかり見ていないと、住むところ、引っ越すところの選択肢が狭まり、せっかく自分に合ったところがあったとしても、見分けられないと考えました。

(市長)

IKEAの前に4ヘクタールの土地がありますが、この土地は、2020年オリンピックの年の4月オープン予定で、2,500人収容の音楽ホールができます。真ん中には温泉付きのホテル、駅の一番近い部分には多摩信用金庫の本店ができる予定です。そのほかに、小さな店舗が入れるような商業用の店舗、中小の事務所が入れるような建物ができます。多摩信用金庫の本店には美術館を併設します。立飛アリーナはトヨタのアルパルクが専用の体育館にして使い始めています。そのほかに、空いたところに砂を敷いて、3人ぐらいのサンドサッカーを始めるそうです。それにより、立川駅の周辺の空き地はほぼなくなり、ハードな部分のまちづくりは、これで終わりになりますので、その次はソフトな部分です。文化や芸術、教育、子育てなどを充実させていきたいと考えています。

道が広いと言われたのは、ほんとうに嬉しいです。立川駅の南口は50年前につくられた計画なので、道が狭いです。それから、SNSで立川の状況を発信すべきという話がありました。SNSはあまり詳しくないですが、これだけ情報網が発達してくると、皆さんはスマホを持っていれば辞書なんかいりません。全部スマホで済みます。市の情報も、そのような形で発信をしていかないと先細りになります。力を入れていきたいと思います

(参加者)

立川の強みは、中央線や南武線、モノレールなど、電車が多いのが良いと思いました。多摩センターから立川駅までモノレールで、1本で行けることが良いと思います。人口が減少している理由を考えましたら、立川の弱みは治安が悪いことだと思います。特に南口は居酒屋が多いので酔っ払いが多く、暗い道もたくさんあり、女性が歩くのは少し危険と感じました。大学生世代でできることは、SNSで立川市の強みを公開していくこと、暗い道は通らないということを意識してもらうしかないと思いました。

(市長)

ありがとうございます。中央線は、複々線になっている三鷹から東京寄りに比べ、立川

～三鷹間は、混雑が激しいそうです。この区間を複々線にしたいということです。中央線の三鷹駅から立川駅まで、高架になりましたが、さらに地下に中央線を1本潜らせて、立川まで地下鉄で来るという計画が都市計画決定されております。国や東京都が予算的に加わらないとできないというのが、JRの回答ですが、複々線にするための三多摩26市全員が加盟した立体化複々線促進協議会として、早期に混雑の改善をしてもらいたいということで動いているところです。

人口減少には、実はまだなっていません。今年も、現時点では18万3,000人ほどで、1月1日から比べると増加しています。そうは言いながらも、25年後、35年後には人口減が一挙に始まります。市の経営として一番の問題は、公共施設です。学校、地域の集会場、図書館もあります。地域の集会場は、12の町会連合会があります。12の塊ごとに市民が自由に使える集会場、学習等共用施設という施設があります。立川市では市民1人当たり2.4平米の公共施設を持っています。多摩26市の平均は1.9平米ですから、圧倒的に立川は公共施設を多く持っています。公共施設の60%以上が、建築後30年経過しているのです。10年か15年後以内には建て替えをしないといけません。人口減の中で、2つ、3つの施設を1箇所にとりまとめ、合築をしていこうということです。

治安のお話が出ました。南口の区画整理が50年前にできたがゆえに、主要道路は何とか車のすれ違いができる広さで確保していますが、一步横の路地に入るとほとんど全ての道路が一方通行にしても良いほどの幅員しかありません。南口の商業者の人たちは、北口と同じような形態のまちづくりを望んでも無理だと言っています。人と人の肩が触れ合うような雑踏のまちが南であるので、食のまちにしていく。要するに食べることを主眼としたまちづくりということで、商店街の皆さんは動いています。道路を広げ、電灯を明るくし、交通量を増やす方向は、単時間では無理だと思います。防犯灯の増設をする、街路灯をLED化にするという取り組みをしまして、安心できるしつらえにしていきたいと思います。

(参加者)

立川市の強みは、都心へのアクセスがよく、昭和記念公園のような大きな自然豊かな公園があり、ららぽーとなどの大きなショッピングモールなどもあるので、大人から子供まで1日楽しめるところです。弱みは、昭和記念公園についてです。地元から家族が遊びに来たときに、祖父と祖母を連れて昭和記念公園に行きました。入り口にあるトロッコみたいな乗り物は待ち時間が長くて乗れませんでした。足腰の悪いお年寄りには楽しめないと思いました。自転車の貸し出し量も少ないと思いました。また、食事をできる場所が入り口の売店しかありません。

私たちができることと言えば、SNSを通して魅力を発信していかないといけないと思います。

(市長)

昭和記念公園は180ヘクタールあり、とても広いです。レストランでなくてもスナックで良いですね。公園の園長とも頻繁に会うので、軽食ができる場所がほしいというお話があったことを伝えておきます。

(参加者)

23区に住んでいる私からすると、立川市は特に強みはありません。モノレールや大型デ

パートがあるので、最初に来た感じは、新宿とお台場まぜたような感じだと思いました。いいところを全部とった結果、特出しているものがないという感じです。南口の治安が悪いということですが、栄えているまちは、池袋の西口、新宿の歌舞伎町など、治安が悪いのは絶対あると思います。立川の地図を見ると、立川北の方面は道路が広く、家族連れがとても楽しそうに歩いていたので、住みやすいと思いました。

立川市の弱みは、中途半端なところですが、危ないところは危ないところなりに、それを押し出した方が良くと思います。飲み屋を増やし、それはそういうところだから仕方ないと思いました。立川駅周辺の喫煙禁止について、新宿駅などは喫煙スペースが多いのですが、立川駅はほぼありません。喫煙者のことも考えていただきたいと思います。

(市長)

強みが特にないとのことですが、立川は急速ににぎわいを見せてきたので、どうしても時間をかけてつくっていくまちよりも、弱点はあると思います。

それから、立川の行政区域はピストルみたいな格好しています。これは合併したからです。旧立川市と旧砂川町が昭和38年に合併しました。旧砂川地域は農業地帯です。その当時はまだ電車も通っていません。その後、西武線ができて初めて人口が伸び始めました。昭和38年の合併時は、旧砂川町の人口は2万人、旧立川市の人口は8万人、両方で10万人でした。ところが今は、旧砂川町が10万人、旧立川市が8万人。旧立川市はほとんど人口が変わりません。住宅が集中したので、旧砂川町に人口が集中しています。北と南で雰囲気全然違うのはそのためです。この後も旧砂川町は、旧立川のような繁華街を持った人口密集地域には、恐らくならないと思います。

たばこの件ですが、立川駅を中心とした半径250メートル以外は全面屋外禁煙です。屋内で吸うしかありません。屋外でたばこを吸うことによって、たばこの煙が吸わない人に影響を与えるからです。立川だけではなく、千代田区もしていますし、2020年のオリンピックに向けて、国や東京都が喫煙に対する規制を強くしていくことになっております。過去にもオリンピックを開く都市は、屋外喫煙を禁止にして、オリンピックを開いてきました。ますます喫煙者にとっては厳しい環境になっていくと思います。私はもう少し禁煙の区域を広げたいと思っています。6ヘクタールのファーレ地区に屋外のアートが109体あり、世界の例を見てもこのような屋外アートは立川しかありません。作者が亡くなっているのに、屋外アートの1体が数億円をするほどの価値あるものばかりになってきています。これは立川の一番のお宝ですので、しっかりと発信し、立川の名物にしていきたいです。そのためには、たばこの煙でコーティングされたアートではいけません。ファーレ地区まで禁煙区域を広げたいと思っています。

(参加者)

立川の強みは、私は今日初めて立川に来たので、友人などに聞いたのですが、ららぽーやとIKEA、昭和記念公園しか出てきませんでした。立川市にはJRとモノレールがあるので、東京や都心へのアクセスはいいと思います。しかし、外から入りづらいのが弱みだと思います。ららぽーやとIKEAがあり、景観もいいので住みやすいだろうなと思いました。道路も広いので、自転車で走るのも坂道少なかったのも、気持ちよさそうだなと思いました。

立川市の弱みは、外からのアクセスが不便なこと、少子高齢化が進んでいる現代において、バリアフリーがあまり見られないことです。強みで住みやすそうと言いましたが、逆

に言うと、ほかに目立つものがなくて、客を呼びよせられるものがあまりないと思いました。趣味を楽しめるものなので、いわゆるオタク、ファッションなど、若者を集められるものがないと、SNSとかで配信する人もなかなか出てこないと思います。SNSで配信するというのも、立川市の職員さんたちがやってもあまり効果がないと思うので、どういう人が使うかというのを考える良いと思います。

あと防犯カメラの件で、前にテレビで、駐車場の車内で薬物を使う人が急激に減ったというのを見ました。その理由は、街灯が青くなったというだけでした。犯罪をする人たちが、警戒していなくなったということなので、実施してはどうかと思いました。

(市長)

ありがとうございます。立川に来るのにアクセスがないのは、そのとおりです。南北の鉄道は、モノレールの多摩市までしかありません。多摩市から町田へ抜いていく計画があります。少なくとも立川と町田がモノレールでつながるのには、皆さんが家庭を持って、子供が大学へ行くくらいの時間が必要だと思っています。SNSの発信はその通りです。

バリアフリーは、例えば歩道の付け替えの問題についても、特に南口は厳しい状況にあります。駅の南北についてはデッキがあり、エスカレーターやエレベーターは付けてあります。障害者や高齢者にとっては少なくとも駅の周辺で階段の上り下りで困ることはないという状況です。ただし、駅から少し離れると、歩道も狭く、歩道にも段差があるなど、そのような状況は承知しています。順序立てて整理していく予定です。

街灯を青くするというのは、青色パトカーとかありますよね。青色パトカーは人の気持ちを鎮める効果があるらしいです。赤色は興奮させる、青色は鎮める、ということです。街路灯が防犯や治安に効果を発揮することはわかっていますから、予算の許す範囲の中で街路灯を増やしていきたいと思います。1つ課題がありまして、20年、30年前は、街路灯は役所が扱っておらず、地域の自治会などが自主的に電柱のところへ裸電気を取り付けて街路灯にしてきました。そのため、多くの街路灯は民間の方が所有しています。同じ電柱に自治会の昔の裸電球と市の付けた一番新しいLEDの街灯が同居しています。最終的には街路灯は市が管理するという方向で、整理を進めているところです。

3 閉会の挨拶

(市長)

今日は本当にありがとうございました。とても楽しい時間を過ごさせていただきました。職員だけでは出てこないような発想を皆さんにさせていただきまして、感謝を申し上げます。これに懲りずに何かありましたら、SNSでも結構でございます、ご投稿いただいております。いつの日か立川市役所職員の応募に皆さんの中から手を挙げていただけるとありがたいなと思います。今日はほんとうにありがとうございました。